

## 第38回 複合材料セミナー

# 社会を支え、未来を切り拓く素材、炭素繊維

今回で38回目となる複合材料セミナーでは、炭素繊維メーカーによるPAN系・ピッチ系炭素繊維の最新技術・市場動向に加え、調査会社がまとめた世界の炭素繊維・複合材料市場動向を取り上げます。また、2024年夏に新設された経産省宇宙産業課による講演、地震大国日本における炭素繊維を用いた新しい耐震補強法の提案、炭素繊維の成形加工技術最新動向、自動車メーカーと建設会社が共同で取り組む炭素繊維リサイクルの新技术など、業界を取り巻く様々なテーマの最新情報を紹介します。

炭素繊維複合材料の『今』を実感できる本セミナーへの多数のご参加をお待ちしております。

■ 日時：2025年2月21日（金） 10:00~16:40 （開場 9:30）

17:00~19:00 懇親会

■ 方法：ウェブセミナー（Zoom使用予定）併用のハイブリッド方式

■ 会場：コンファレンススクエアエムプラス（M+）

東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10F

※会場でのご参加は定員制（先着順）のため、ご希望に添えない場合があります。

※ウェブセミナーご参加者は、アクセス先を開催数日前に別途メールでご連絡します。

■ 参加費 1名につき（※会場参加者には昼食をご用意します。また懇親会にご参加いただけます。）

一般	20,000 円
官公庁・学校関係者	15,000 円
学生	3,000 円

◆アカデミアパック◆ 大学教員の正規お申込み1名につき学生5名までウェブ参加無料！

■ 申込方法 炭素繊維協会のホームページから参加申込みができます。

<http://www.carbonfiber.gr.jp/>

■ 支払方法：参加受付後、事務局から請求書を送付します。

振込手数料はご負担ください。振込後のキャンセルによる返金はできません。

■ 主催：日本化学繊維協会炭素繊維協会委員会

協賛予定（50音順）：（一社）強化プラスチック協会、（一社）繊維学会、（一社）先端材料技術協会、

（一財）素形材センター、炭素材料学会、（公社）日本材料学会、（公社）日本セラミックス協会、

（一社）日本複合材料学会

■ お問い合わせ 複合材料セミナー事務局

日本化学繊維協会 炭素繊維協会委員会

TEL 03-3241-2313 FAX 03-3246-0823

# 「第 38 回 複合材料セミナープログラム」

主催者開会ご挨拶

-----[10:00~10:05]

## 1. PAN系炭素繊維の現状と将来

-----[10:05~10:50]

地球環境の保全に貢献する脱炭素社会の必要性が高まる中、炭素繊維は「軽量」かつ「高強度」という特性から、航空機や自動車、風力発電、産業用途に幅広く利用されており、今後もその特徴を活かして更なる発展が期待される材料である。本講演ではその市場や用途の観点から、PAN系炭素繊維の現状ならびに将来展望について紹介する。

三菱ケミカル株式会社  
炭素繊維本部 技術統括部 部長  
畑 昌宏 氏

## 2. ピッチ系炭素繊維の現状と将来

-----[10:50~11:35]

ピッチ系炭素繊維は、石油や石炭の残渣を原料に、高度に精製調整されたピッチを原料としたもので、結晶構造や繊維形態などの違いにより様々な特徴を有する。このため PAN系炭素繊維とは異なる、独自のアプリケーションを展開している。本講演ではピッチ系炭素繊維の特徴と用途展開について紹介するとともに、今後の展望を紹介する。

日本グラフィートファイバー株式会社  
常務取締役  
荒井 豊 氏

## 3. 炭素繊維・複合材料市場の展望と戦略

-----[11:35~12:20]

世界の炭素繊維市場は長らく日本がけん引し、近年は新エネルギー用途で風力発電翼、水素用圧力タンクへの採用が増加している。一方、ラージトウを中心とした中国メーカーの台頭や、中国が「カーボンバレー」などの政策による市場開拓を進めるなか、世界の炭素繊維メーカーの動向と市場への影響が注目される。

株式会社矢野経済研究所  
インダストリアルテクノロジーユニット  
素材産業グループ 上級研究員  
青木 万葉 氏

昼 食 休 憩

-----[12:20~13:20]

## 4. 経済産業省における宇宙産業政策について

-----[13:20~14:05]

宇宙産業はトレンドが「官」中心から、スタートアップ企業や多様な業種の企業が参入する「民」主導へと移行している。世界的にも市場競争が激化している中、我が国の宇宙機器産業がさらなる成長を遂げるためには、革新素材を含む強靱な産業基盤を構築することが重要となる。2024年7月に宇宙産業課を設置した経済産業省が目指す宇宙産業の産業構造と成長の方向性について紹介する。

経済産業省 製造産業局  
宇宙産業課 課長補佐  
岩永 健太郎 氏

## 5. 炭素繊維より線による古い工場建物の耐震補強

-----[14:05~14:50]

高度成長期に建設されいまだ現役で稼働中の古い工場建物は一定数存在する。新築するには相当の敷地と資金が必要。耐震補強するには工場内の主要設備の撤去が求められる。今回、炭素繊維より線を用いて工場稼働を止めずに耐震補強する工法を開発し、第三者認証の取得に挑戦している。地震大国日本に炭素繊維を活用した新しい解決策を提供したい。

小松マテレ株式会社 理事  
技術開発本部長補佐 兼 新規事業開発部長  
兼 グリーン事業G長  
奥谷 晃宏 氏

休 憩

-----[14:50~15:05]

## 6. 自動成形装置に関する最新動向

-----[15:05~15:50]

近年、自動車及び航空機用途としてコンポジット製品の採用が増えており、それらの製品生産において自動化が進められている。本講演では、コンポジット製品の生産自動化を実現するロボットを用いた自動成形装置等に関する日本だけでなく海外を含めた最新動向を紹介する。

株式会社 KADO  
代表取締役社長  
倉谷 泰成 氏

## 7. CFRP 端材のリサイクル活用～コンクリート材への再生利用

-----[15:50~16:35]

CFRPは軽量で高強度、耐久性に優れ、自動車、FC車に搭載される水素タンクや航空機などに利用されているが、CFRPの強度を保ったまま再利用することができなかった。本講演では株式会社大林組様と共同で仕様検討を重ね、CFRP端材をコンクリート補強用短繊維として再生利用する「リカボクリート工法™」を紹介する。

トヨタ自動車株式会社  
素形外村技術部 先行開発室  
主任  
沼田 裕介 氏

主催者閉会ご挨拶

-----[16:35~16:40]

懇 親 会

-----[17:00~19:00]